

ODF '12 サントペテルブルグ大会 区長演説草稿

議長、ODF (International conference on Optics - photonics Design and Fabrication) メンバー、並びにご乗船の皆様。

このような素晴らしい方々を前に、50万人板橋区民を代表してスピーチを行う機会をいただきまして、大変光栄に存じます。

板橋区は、東京都内に位置する面積 32 km²ほどの小さな自治体ですが、そこには世界に通じるブランド力を持った企業や、オンリーワンの技術で日本のものづくりを支えている中小企業など、多くの企業が立地（存在）しています。

板橋で生まれ育った私が子どもの頃。1960年代は板橋区内の光学産業が最も隆盛を極めていた時代でした。その当時、日本から海外に輸出される光学製品出荷額の70%が、「メイド・イン・イタバシ」で占められていました。光学産業がそれほど盛んだったことは、子どもの私には知る由もないことでしたが、遊びを通じて自然に光学産業の“恩恵”を受けていたことを、ずっと後になって知ることとなりました。

小学校から帰ると、私たちはすぐに近所の原っぱに遊びに出かけたものでした。そして、工場の庭先に捨てられた“ある物”を発見します。大人の親指ほどの大きさの“それ”は、子どもの好奇心を満たすに十分なガラス状のもので、覗き込むとそこにあるはずの景色が斜め方向から目に飛び込んできました。

もうお判りでしょう。それは双眼鏡などに使われるはずだった出来損ないのプリズムだったのです。私たちは競って形の良い物、きれいに見えるものを拾い集め家に持ち帰りました。あるときは学校に持っていき、休み時間に友だち同士でコレクションを自慢し合うなど、「宝物」と呼ぶに十分な価値を持つものでした。

さて、国産初の35ミリ眼レフカメラが登場したのは、私が生まれる数年前の1952年のことでした。このカメラは、現在の「ペンタックス・リコーイメージング社 (PENTAX RICOH IMAGING COMPANY, LTD)」の源流の一つである旭光学によって、100台が製造されたということですが、これを機に多くの光学系企業が一眼レフカメラの技術開発を繰り広げました。旭光学と世界初のTTL (Through the Lens) 測光技術の開発で競い合った企業が、現在測量機器や眼科医療機器分野で、世界のトップレベルのシェアを持つ「トプコン (TOPCON CORPORATION)」です。この二つの企業は今も板橋区内に本社を置いています。

当時の板橋区内には、これらの大規模な会社に寄り添うように、多くの町工場が軒を連ねていました。その多くはレンズの調整を専門に行う会社や焦点リング等の部品を製造する会社など、双眼鏡やカメラの製造工程の一部だけを受け持つ家族経営の会社でした。

そんな街の雰囲気の中で育った私は、自然とカメラに興味を持つようになり、中学時代には、父親にねだり最新型のカメラを手にすることができました。私はその後、アーキテクトの道をめざすことになりましたが、高度な技術を小さな箱の中に詰め込んだカメ

ラを手にしたことが、今思えば、設計の仕事に興味を持つきっかけになったものと思っています。

今日は、私たちが住む街「板橋区」を紹介する映像をご用意しました。DVDの後半には、板橋の光学産業の歴史を収めた映像も入っていますが、少々長いため、ここではイントロダクションだけのご紹介になります。どうぞご覧ください。

(DVD-映像)

このDVDは、この場にいらっしゃる全員分用意しました。

(…現物を手に…) ここに小さな天体望遠鏡があります。何の変哲もない小さな望遠鏡に見えますが、これと同型のものが、国際宇宙ステーションのミッションで、二度にわたリスペースシャトルに乗り込んだ、日本人宇宙飛行士の土井隆雄さんの携行品として宇宙を旅して来ました。この望遠鏡も板橋区内に本社を置く「タカハシ」が製造したものです。

東京は、ご存じのように世界を代表する大都市の一つです。日本経済の発展とともに多くの人口を抱えるようになり、町工場にとっての東京は、60年代のように仕事のしやすい場所ではなくなってしまいました。

都市の過密から逃れ広い土地を求めて、多くの企業が板橋区を去りました。しかし、今なお板橋の地に根を下ろし、光学技術を活かした関連製品の製造や研究開発に取り組む企業が数多く存在します。双眼鏡やカメラの技術を基に、板橋区内の企業が培ってきた光学技術は、計測検査機器や医療機器などに引き継がれ、新たな産業活力を生み出しています。

板橋区には、ドストエフスキー(*1)やベリンスキー(*2)は暮らしていませんでしたし、エルミタージュ美術館もありません。しかし、一眼レフカメラなどの開発によって培われた技術者のチャレンジ精神は、今も多くの中小企業の中に息づいています。

板橋区民の誇りである光学・精密機器産業の息吹を感じに、ぜひ板橋区にお越しください。50万人区民とともに、板橋区長として心から皆様を歓迎します。

2年後のODF '14開催に向け、板橋区では万全の態勢で準備を進めることをお約束します。

ご清聴ありがとうございました。

*1 フョードル・ミハイロヴィチ・ドストエフスキー(1821年-1881年)

19世紀を代表するロシアの作家。代表作に『罪と罰』『白痴』『悪霊』『カラマーゾフの兄弟』などがある。

*2 ヴィッサリオン・グリゴリーエヴィッチ・ベリンスキー(1811年-1848年)

ロシアの著名な文芸批評家。ドストエフスキーの処女作「貧しき人々」を見出し、激賞したことで知られる。今回乗船する客船の名(ベリンスキー号)にもなっている。